

## 山ノ内町まちづくりアンケート結果概要

### 【背景と目的】

令和7年3月実施の町民アンケート調査に基づき、町民ニーズと課題の傾向を分析し、第6次町総合計画後期基本計画で「優先的」・「重点的」に取り組むべき施策の方向性を整理しました。

### 1. アンケート結果の概要

第6次町総合計画後期基本計画の策定に向け、町民の意識を把握するために、令和7年3月にアンケートを実施しました。調査対象者は、町内在住の16歳以上の男女1,000名、有効回収数633件（回収率63.3%）でした。

アンケート結果としては、自然環境や地域への愛着を評価する声が多く見られました。「住みやすい」・「まあ住みやすい」との回答が6割を超えており、山ノ内町の自然や温泉などの地域資源に対する満足度は高い傾向にあります。また、住民の過半数が今後も「住み続けたい」と考えています。

一方で、利便性やインフラ面への不満も浮き彫りになっています。特に『医療体制』・『公共交通』・『子どもの遊び場』・『就業の場』などに関しては、満足度が低く改善を求める声が多く見られました。若年層では、定住意欲が比較的低く『交通や買物の利便性』・『古いしきたりへの違和感』・『就業機会の少なさ』など課題となります。高齢層では、定住意識は比較的高いが、『交通や買物の利便性』・『冬期間の生活・雪対策』などが課題となっています。

また、町政に対して『情報が十分に届いていない』と感じる住民も多く、情報発信の方法や住民参加の仕組みの改善が求められています。町の将来像については、『自然環境に恵まれたまち』・『観光・レジャーの盛んなまち』とする意見が多く、観光資源の有効活用やインフラ整備への期待が伺えました。

### 2. アンケート結果からの現状と課題

#### (1) 定住意向

本町に「いつまでも住み続けたい」・「できれば住み続けたい」と回答された住民は64.0%にのぼり、自然や生活環境の良さ、生まれ育った地域への愛着が主な理由となっています。特に40代以上では「家や仕事を継ぐため」・「温泉があるから」といった定住意向が見られました。

一方で、「できれば町外に移りたい」と回答される層も33.0%存在し、特に16～29歳の若年層や一部地区で割合が高く、『生活の利便性』・『就業環境の不十分さ』が転出希望の要因とみられます。

#### (2) 生活インフラ

自家用車依存の傾向が強いこともあり、買い物や通院の多くが中野市や長野市に依存しており、町内での利便性は低い現状で、『公共交通機関』の満足度も低く、高齢者や免許返納者への支援体制が求められています。また、『除雪体制の強化』や『道路整備』も重要視されています。

### (3) 出産・子育て

『保育料・教育費の軽減』、『保育・学童保育サービスの充実』、『遊び場の整備』が課題として挙げられており、特に20～39歳の若年層からの要望が多く挙がっています。自由記述では他自治体と比べた子育て支援の遅れを指摘する回答もあり、施策の充実が求められていることから施策の周知強化の必要性も高いことが伺えます。

### (4) 医療・福祉

医療体制について『病院が町内にない』、『高齢者はどこにも行けない』など町内で医療サービスを受けられない現状に不満がみられます。また高齢化に伴い、『デイサービスや在宅福祉、病気・介護予防』への期待も寄せられています。

### (5) 若者の移住・定住

若者の定住を妨げる要因として、『仕事の少なさ』、『娯楽施設の不足』、『古い慣習への抵抗感』が挙げられます。自由記述では『出会いがない』、『古いしきたりがわずらわしい』といった意見も多く、若者の視点に立った柔軟な政策が求められています。『若者に選ばれる郷土(まち)』のためには、就業機会の増加、カフェや飲食店の充実、経済的支援などが求められています。

### (6) 産業

農業振興では『後継者の育成』、『生産基盤の整備』、『ブランド化推進』が求められています。観光業に関しては、既存施設の改修や地域資源を活かした観光プランの充実が期待されています。

インバウンド需要も多く、『外国人による長期滞在化』、『満足度の向上による再訪問』を狙った観光戦略の構築が望ましいという声もありました。一方で、『外国人観光客のマナーが悪い』、『生活空間に観光客が入り込むのが不快』などの回答もあり、地域経済にとって不可欠であるものの、利便性・治安・文化保全の観点から不安や不満がみられます。

『稼げる郷土(まち)』、『起業できる郷土(まち)』には、『起業支援金』や『交通インフラ整備』、『人材確保支援』が求められています。

### (7) 文化・スポーツ

スポーツ施設やレクリエーションの場への不満が多く、住民の健康増進や交流の場としての機能強化が課題となっています。こどもの文化・スポーツ活動を通じた地域活性化にも期待が寄せられており、特に40代以下の年齢層では、住民活動を活発にするための取り組みとして求められています。

### (8) 外国人に選ばれるまち

『外国語対応の案内・サービス』、『生活サポート情報の充実』が求められています。一方で、外国人への優遇に対する不満や治安への不安を抱く回答もあり、『多文化共生の推進』と『住民理解の促進』が課題です。

### (9) 防災・防犯

防災体制や除雪体制には比較的満足度が高い評価を得ていますが、防犯対策にはやや不安が指摘され、夜間の安全性や防犯灯の整備などが課題となっています。

## (10) DXの活用

LINEやメールによる情報配信は活用が進んでいますが、町ホームページの閲覧頻度は低く、デザインや検索性への不満も寄せられています。また、スマホ教室の認知は低く、高齢層への『デジタル支援』が引き続き求められています。

## 11. コミュニティ

住民活動の活性化には、『古いしきたりの見直し』や『若者が参加しやすいイベント』の実施が求められています。住民の約半数が地域活動に参加しておらず、特に女性や若年層でその傾向が顕著です。「参加していない」理由としては、仕事や家庭の負担、関係性の煩わしさなどが挙げられています。

## 12. 行政サービス・情報収集と発信

町の情報は「広報やまのうち」やLINE等で取得されている一方、「町の計画・制度の情報」や「イベント情報」が不足しているとの認識が多く、『わかりやすい広報』や『ホームページの改善』が求められています。自由記述では「検索しにくい」「内容が伝わらない」等の回答が寄せられました。

## 3. 今後の取り組みについて

アンケート結果を踏まえて、今後のまちづくりにおいて優先すべき取り組みについて整理しました。

### (1)子育て・教育支援の強化

若年層や子育て世帯から『保育料や教育費の軽減』・『遊び場の整備』・『学童保育の充実』などへの要望が多く寄せられています。

### (2)医療・交通など生活インフラの充実

医療機関や公共交通に対する不満が多く、特に『高齢者や交通弱者のための移動手段の充実』が求められています。

### (3)若者の定住・移住促進

若年層では町外への流出要望が多く、特に『就業機会の不足』や『娯楽の少なさ』等が理由となっており、『空き家の有効活用』が進まず、『住宅不足と老朽化』の両面でも課題があります。

### (4)地域共生型のまちづくり

インバウンドを中心とした観光の重要性は高いものの、オーバーツーリズムや生活圏への影響を懸念する声がみられます。

## 4. 後期基本計画策定において重点的に意識する事項

後期基本計画の策定にあたっては、人口減少の事実を町民と職員が共有し、次の事項に留意しな

がら、計画に盛り込み、町の将来像である『未来に羽ばたく 夢と希望のある 健康な郷土(まち)』の実現を目指す取り組みを実施していきます。

#### (1)人口減少・少子高齢化の緩和を目指す郷土(まち)

総合計画基本構想における令和12年の『目標人口10,500人以上(町人口ビジョン)』を維持できる計画とし、本格的な『少子高齢化の緩和』に対応した計画とします。

#### (2)脱炭素社会の実現を目指す郷土(まち)

持続可能な郷土の実現に向け「山ノ内町ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、『2050年までにCO<sub>2</sub>排出実質ゼロ』を目指す計画とします。

#### (3)若者・外国人から選ばれる郷土(まち)

多様な住民が安心・快適に暮らせる環境と魅力ある地域づくりを進め、『住み続けたい郷土』・『選ばれる郷土』の実現を目指す計画とします。

#### (4)稼げる郷土(まち)

地域の特性を活かした、独自のブランド力を強化することで、『産業振興』と『関係人口の拡大』により、町内外から稼ぎを生む経済の土台を整え、『稼げる郷土』の実現を目指す計画とします。

#### (5)DXを推進する郷土(まち)

行政分野のデジタル化により、利便性と効率性を高め、『誰もが取り残されないスマートな郷土』を目指します。

以上